

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
【か】よく考え 【な】なかよく 【が】がんばる 【わ】わたしたちがなっ子	
【か】自らすすんで問題を見つけ、よく考えて判断して行動し、豊かに表現できる子どもを育てます。(知)	
【な】自分や他者のよさを認め合い、個性を發揮しながら他者と豊かにかかわり合う子どもを育てます。(徳)	
【が】自分の心と体に関心をもち、すすんで健康保持に努めるとともに、体力の向上を目指す子どもを育てます。(体)	
【わ】自分が住む神奈川の「まち」について理解を深め、「まち」とともに育ち「まち」に貢献する子どもを育てます。(公)	
多様な文化やひとの存在を理解し、視野を広げて共によりよく生きようとする子どもを育てます。(開)	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
粘り強く考え、学び続ける力 言葉のつながりを大切にす力 健康な心と体	具体化した資質・能力 ・見つける(課題を) ・考える ・つなげる ・試行錯誤する ・行動する ・振り返る ・次を見つける ・創造する ・応用する ・思いを話す ・わかりやすく伝える ・しっかりと聞く ・折り合いをつける ・相手を思いやる ・多様性の理解 ・共に生きようとする ・粘り強さ ・チャレンジ ・たくましく生きる ・まちに誇りをもつ

中期取組目標	
○子ども一人ひとりの思いを大切にしたい楽しい授業を通して、主体的な学び・活動を充実させます。	
・自ら進んで問題を見つけ、粘り強く考え、判断して行動する力を高めます。	
・物事や情報をじっくり考え、疑問をもち、物事を多面的に考える力をつけていきます。	
○自分の考え、思いを伝え合い、相手の立場や個性を尊重しながらコミュニケーションを図る力を育成します。	
・相手に対する適切な接し方や挨拶に対する意識を高めます。	
○心身の健康保持に努める意識を高め、よい生活習慣を身につけられるようにします。	
・個々のデータの变化も活用しながら、自分の価値や能力を認め、自信をもって行動できる力を高めます。	
○まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①単年で育成する資質・能力を明確にし、子ども自ら課題を見出し、解決できるような授業づくりをする。AI等を活用し、授業準備する。②自分の考えを言葉で伝えることを大切にするために、関わり伝え合う場を設定し価値付ける。③チーム学年で授業改善に努める。
担当	教育課程・研究推進

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる子どもの実態
横浜学習状況調査において、学力は全ての学年で市の平均を下回っている。令和6年度から7年度にかけては、横ばいの状況。

(2) これまでの学校の取組状況
・6年間継続して、算数科を軸に子ども自ら課題解決を図ったり、見方・考え方を働かせたりする授業づくりを行っている。
・教師自身が、学習の系統性を意識することで、教材の位置づけや価値を把握し、見通しをもって授業づくりや単元づくりができるようになってきた。
・子どもが教師ではなく、子ども同士で関わり合いながら学ぶ場を意図的に設定し、学び合いの成果を価値付けている。
・取り出しによる学習を充実させることで、子どもが安心して丁寧に学べるようにしている。

今年度の目標	
「数学的な見方・考え方を働かせて自ら探究する子」の育成	

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> 重点研究で算数科を軸に「数学的な見方・考え方を働かせて自ら探究する子」を目指して授業研を行い、協議することで、教師の授業力を高める。 子ども同士で関わり合い、対話したり協働的に学び合うことよき実感できるような学習の場を意図的に設定する。 本年度5月に実施した市学習状況調査の結果をもとに、各学年の状況に応じて学習計画を修正する。 教科や単元ごとに目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。 チーム学年で評価規準や学習計画の確認をし、授業改善に生かす。 朝学習の時間を有効活用したり、デジタルドリルを繰り返し取り組んだりすることで、基礎基本の定着を図る。 家庭学習を、基礎基本の定着を図るものだけでなく、かなっ子学習(子どもが自らの課題に応じた学びを選択できるような内容)を取り入れ、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> 重点研究で算数科を軸に「数学的な見方・考え方を働かせて自ら探究する子」を目指して授業研を行い、協議する中で、本校が目指す子どもの姿より明確に具体的にしている。 研究で学んだことを、算数科だけでなく他教科における日々の授業にも汎用する。 子ども同士で対話したり協働的に学び合えるような環境・学級づくりを大切に、学び合いの機会や多様な場を増やしていく。 各学年の前期の学習状況を分析し、成果や課題に応じて学習計画を修正する。 教科や単元ごとに目指す資質・能力を明確にした授業づくりを継続する。 チーム学年で評価規準や学習計画の確認や見直しをし、指導と評価の一体化を意識して授業改善していく。 家庭学習を充実させるために、手本や目指す姿を示したり、子に応じた課題を投げかけたりして、子どもの学びや成長を価値付ける。 地域と連携し、学んだことを活用する場や、自分の成長を実感できる場を設定する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①YPの年間の計画をもとに、見直しをもって学級の実態に合ったYPプログラムの実施をする。②地域の様々な人と関わり学ぶ中で、自ら挨拶の大切さに気付き、相手意識のある活動を充実させる。行事、総合的な学習の時間を各教科と関連させるなど、自ら相手や地域の人々と関わりをもち、周りに支えられていることに気づけるようにする。
担当	人権・特別支援・児童指導

豊かな心に関わる本校の状況	
○人権掲示板を設置し、学校教育目標に基づいた学年、学級目標の中で人権的意識に関わる部分がかかるように掲示した。	
○人権週間には、各学級でYPに取り組み、人権の目標の振り返りを行った。	
○YPの年間計画を作成し、全校集会でもYPに取り組んだ。各学級で年間を通して行っていくことは課題である。	
○子ども会議に向けて全学級でいじめのYPIに取り組んだ。子ども会議後には児童から朝の会に行うYPを提案した。	
○挨拶は課題である。朝会で呼びかけたり、挨拶カードに取り組んだり教師が手本を示したり声掛けをしたりするようにしてきた。	
○異学年交流については、ペア学年だけではなく、学習の交流や行事を通して関わりなど年間を通して意識して行えた。	

今年度の目標	
人と関わり合うよさに気付き、相手との違いやよさを認めていこうとする子を育てる。	

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標に基づき、人権的視点をもった学年目標を立て、人権掲示板に掲示する。 日常的に目標の振り返りを行い、よい姿を価値づける。 ペア学年活動は年間計画をもとに、遠足や集会だけでなく年間を通して継続して関わりをもてるようにする。 朝会等で挨拶を呼びかけたり、挨拶の意味や大切さを意識させたりして、自分から挨拶できるように指導する。 行事や生活科、総合的な学習、各教科の学習を地域とのつながりを密にし、道徳の授業の推進を行う。 YPの年間計画を周知し、見直しをもてるようにする。 いじめの未然防止につながるYPを全学級で行い、子どもたちが課題意識をもてるようにする。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> 学年目標の振り返りや見直しを行う。 年間計画に沿って継続的にペア学年活動を行う。必要に応じて計画を見直したり、下学年からも集会の企画をしたりする。 挨拶が自分からできるように継続的に指導する。 行事や生活科、総合的な学習、各教科の学習を地域とのつながりを密にし、道徳の授業の推進を行う。 人権週間の取り組みを通して、人権について考える機会をもつ。 いじめの未然防止について、横浜子ども会議で話し合われたことを校内に広げていく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①健やかな体を育成するために全校で「レッツ体力アップ」を実践していく。成長を実感でき、主体的に取り組めるカードを用意し、「短縄」「持久走」に取り組む。「できた」「もっとやりたい」と、自らの意識を高めていく取組を目指す。②児童自らが考え行動できる学校保健委員会を運営する。
担当	体育・学校保健

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童の実態
○新体力テストの結果は横浜市平均より上回っている種目が増えてきている。その中でも長座体前屈とソフトボール投げは市の平均値を下回っている。
○「運動やスポーツへの興味や関心」について、横浜市の平均を下回っている。休み時間や放課後に、外で遊ぶことを楽しんでいる児童が多いが、運動・スポーツへの興味・関心が薄れている状況が把握できる。

(2) これまでの本校での取組
○「レッツ体力アップ」を継続的に取り組んだ。短縄はペア学年で実践し、上学年は跳び方を教えたり、下学年は真似しながら学んでいたりするなど、ペアでの関わりを充実させてきた。持久走はブロック学年で実施し、安全を確保しながら、切磋琢磨しながら取り組んだ。

今年度の目標	
「レッツ体力アップ」を通して、目標を達成する楽しさや友達と一緒に運動する楽しさを味わうことができるようにしていく。運動に親しむ中で興味や関心を高め、運動への意識改善を図っていくことを目指していく。	

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> 上半期の「レッツ体力アップ」では、第1ステージの「短縄」を実践していく。朝の時間に、レッツ体力アップの時間を設け、低・中・高ブロックに分かれて実施する。様々な跳び方を習得・挑戦することを目標に縄跳びを行う。学習カードを通して、技の習得度を段階的に確認できるようにしたり、技の難易度を視覚化したりする。また、休み時間や体づくり運動の領域の学習でも取り組めるように、校内で活用例を周知していく。 学校保健委員会「かなっ子会議」では、児童自らが校内の課題を発見し、その課題に対し、どのように取り組んでいくのかを明確にする。 食育指導では、生活リズムが整うように、起床時刻の見直しや、朝食の重要性に気付けるよう呼びかけていく。また、バランスよく食べることに気づけるようにする。 長期休みでは、「歯磨きカレンダー」と「早寝、早起き、朝ご飯」カードを作成し、生活習慣を確立させていく。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> 下半期の「レッツ体力アップ」では、第2ステージ「持久走3分間」9～11月、第3ステージ「持久走5分間」12～2月に取り組む。活動前に各自のめあてを立て、目標に向かって取り組めるようにする。また、走った周数分、日本地図の都道府県を塗って埋めていくというカードを作成し、楽しみながら取り組めるように工夫する。走り続けるには、ペース配分に気を付けなければならないことに気付けるように声を掛け、無理のない範囲で持久力を向上させられるようにする。 学校保健委員会「かなっ子会議」では、前期の実践を振り返り、より自分の健康を高めるための生活習慣、食などを考え、実践できるようにする。 日々の給食時間を食育の時間とし、毎日バランスよく食べられているか、苦手なもので少しでも食べられるようにできるように、毎日の残食量を計測し報告したり、チャレンジカードを活用したりする児童会活動を推進する。